

## 「夏の子ども食堂」も復活 2023.8.5



夏の「子ども食堂」は春と同じ杉並の東京立正中学・高校で開催。小中学生、未就学児、保護者あわせて137名が集まりました。学士会館精養軒の前料理長大坂さんもかけつけ、子どもたちはカレーライスなどをおいしく食べました。遊びコーナー会場では、読み聞かせ、缶バッジ、手作りうちわ、おり紙、バルーンアートなどを楽しみました。キワニス関係の19名を含め総勢70名のスタッフがボランティアとして参加しました。



# 春の子ども食堂、4年ぶりに復活

## 杉並の東京立正中・高を会場に 2023.3.27.

130人超える参加者  
おいしいカレーに「おかわり」

春休みの子どもの食堂が4年ぶりに復活、3月27日に東京・杉並の東京立正中学・高校を会場に開催しました。校庭に咲く満開の桜を見ながら、ベビーカーを押して参加する親子、仲良しの友だちと参加する小・中学生など、近隣の子どもと保護者、あわせて131人が来場しました。同校の食堂で学士会館特製のカレーライスやパテトサラダなどのランチを食べたあと、講堂でフォークローレや太神楽などアトラクションを楽しみました。

この子ども食堂は、春休み中の平日、親が仕事で出かけている子どもに居場所を提供するのが目的で、近隣の小・中学生、未就学の子どもやその保護者らは誰でも参加できます。



私立校で初めて開催したこともあって、「近くをよく通っているが、校内に入ったのは初めて」という参加者も多かった。カレーライスは「お肉やジャガイモがごろごろ入っていて、おいしかった」と大評判。

学士会館の田中料理長と女性スタッフがコックさんの姿で子どもたちの前に立ち、「カレーは、20人がかりで準備し、会場まで運び込んだ。おいしく食べてほしい」とあいさつすると、会場から大きな拍手が起きました。

今回は東京キワニスクラブとNPO法人すぎなみ子どもサポートの共催、堀之内学園東京立正、妙法寺、学士会館などの協力で実施しました。スタッフとして参加したのは総勢43人。うちキワニス関係が14人、東京立正の中高・短大生11人もボランティアとして参加しました。

2019年までは、寺子屋の会場にもなっている杉並の妙法寺で、春休み、夏休みに300人規模の子ども食堂を開催してきましたが、コロナ渦の影響で3年中断、今回、妙法寺とつながりの深い東京立正の食堂・講堂に会場を変え、ようやく復活を果たしました。



## “夏”の「子ども食堂」in杉並区・妙法寺 2019.8.5

猛暑の中、約300名もの子ども達・ご家族が参集。「学士会館」大坂料理長の特製カレー＆特製サラダ、ゼリーに舌鼓。大好評でおかわりもせがまれるほど。食後は、お隣の茶道会場やイベント会場へ。茶道では日ごろと違った正座した神妙な子ども達の姿に、お母さんたちも笑顔に。イベント会場では、刀、お花、など次々と生み出す「バルーンアート」、折り紙で作った金魚をモビールにする「折り紙づくり」、描いた絵がバッジになる「缶バッジ」、アクセサリーになる「プラバン」、どれもボランティアの皆さんのお力で行列ができるほど大人気。

地元の中高校生、地域の方々、キワニス関係者と60名を超えるボランティアの皆さん、熱いご支援に感謝。次回は春休み。

皆様のご参加をお待ちしています。

(事業企画委員会)



子ども食堂スタート！



ご馳走様！



顔出しOKいただきました♪

桜舞う春の陽気の中、過去最高408名(昨春370名)が参加。「学士会館 精養軒カレーライス」&「手作りサラダ」も好評でした。食後、新聞紙の「音の出る鉄砲」に子ども達は大喜び。「太神楽(だいかぐら)」の見事な曲芸も大喝采でした。今回も、ボランティア約40名(地元中・高校生、地域、キワニス関係者)が大活躍。次回、“夏”の「子ども食堂」は、8月5日(月)の予定です。

(事業企画委員会)

●子ども食堂…「子どもの居場所作り・皆と一緒に食事を」をテーマに、春夏年2回実施しています。



“春”の子ども食堂in妙法寺  
2019.3.27 (水)



## ロハスde 子ども食堂 2018.12.23(日)

キワニスとともに活動する大学生サークルを「サークルK(キワニス)」と位置付けて支援しています。中でも武蔵野大学学生団体「Connect」は積極的に活動中で、今年の12月23日(日)には武蔵野大学有明キャンパスにある「ロハスカフェ」で子ども食堂を開催しました。当日は9人の子ども達が参加し、キワニスクラブは当企画の宣伝に協力しました。



## 看板プロジェクトコンテスト

## 東京キワニスクラブ「子ども食堂プロジェクト」が金賞受賞

去る9月7日から熊本市内のANA ホテルにおいて国際キワニス日本地区の大会が開催されました。小生も参加させていただいたのでその御報告をいたします。

まず驚いたのはわずか2年半で見事に復興を遂げた熊本県民の皆さんのご努力でした。もちろんまだ熊本のシンボルである熊本城は工事中ですが、仙台から来られたキワニアンのお一人が市内はほとんど震災の跡が残っていないと感心されるほどに復興は着実に進んでおりました。熊本が今後も着実に復興が進むよう心から応援させていただきたいと思いました。

また今回の大会では東京クラブにも大きな喜びがありました。それは、第2回看板プロジェクトコンテストにおいて当クラブの「子ども食堂プロジェクト」が見事金賞の栄冠を勝ち取ったことです。今後もこのプ

ロジェクトを大きく育てていく必要があると感じた次第です。

(副会長 日本地区奉仕委員長 磯田壮一郎)



佐藤嘉昭ガバナー（左）から金賞の盾を授与されました。





## 子ども食堂in妙法寺2018年夏 2018.8.2

2018年「夏の子ども食堂」が、8月2日(木)に「堀之内妙法寺」で開催されました。猛暑の中、340名の子ども達、ご家族に参加いただきました。

12時の受付開始前から長い行列、受付を済ませると食堂へ。食堂では美味しいカレー、サラダ、ゼリー、カステラまんじゅうが振舞われ、皆、大喜びでした。

大勢の人々の整理は大変です。毎回工夫し、今回はお寺の本堂を開放していただき、幾分涼しく順番を待つことが出来ました。

40名を超える学生、地域のボランティア。キワニス関連は25名。妙法寺、ボランティアの学生、地域の方々、キワニス会員が一体となつての運営は回数を重ねる毎に連携もスムーズになり、特に中学生ボランティアの素早い動きと人を引き付ける話術は素晴らしいものでした。

イベントはバルーンアート、プラバン、缶バッジ、折り紙、団扇作り、お手玉と盛りだくさんです。恒例のイベントで大好きなお絵描きに子ども達は夢中、大人も一緒になっての参加です。子ども達は勿論、大人も終了時間を忘れて楽しんでいたのが印象的でした。

(事業企画委員会副委員長 雲類 鷲 孝)



## 子ども食堂in妙法寺2018年春 2018.3.27

3月27日（火）晴天の暖かい日の12時から15時、「堀之内妙法寺」において、「子ども食堂」を実施いたしました。妙法寺での子ども食堂は年2回、「子どもの居場所作り・皆と一緒に食事する」をテーマに春休み、夏休みに実施していますが、その1回目です。妙法寺の満開の桜が子ども達を迎えてくれました。

多くの子ども達、そのご家族が受付の始まる前から集まり、待ちきれない印象。3年目を迎えた子ども食堂は地域にしっかりと根付いてきていることに感謝しながら、スタートしました。

370名ほどの子ども達、ご家族の方々が参加されました。学士会館精養軒のカレーライス、地域の方々が料理したサラダを食べました。「美味しかったです」、キワニスの会員を見つけて、「寺子屋の人達がいる」の嬉しい言葉。

その後、茶道体験、イベント会場へと移動。茶道体験では日常、正座することが少ない子ども達が慣れない手つきでお茶を飲む、神妙な顔つきが場の雰囲気と和ませます。茶道が初体験のお母さん達も、正座は辛いかもかもしれません。

イベント会場ではウサギの顔に化粧したピエロが作る「バルーンアート」。子ども達が描いた絵が主役、絵がバッチになる「缶バッチ」、アクセサリーになる「プラバン」。和紙で作る傘独楽。プロのマジシャンと見ま



学士会館 大坂勝総料理長

がうマジックなどを楽しみました。

ボランティアとして参加いただいた方々が37名。中学生（2校7名）、高校生（2名）、大学生（8名）、地域の皆様（20名）が食堂の整理、後片付け、イベントで大活躍していただきました。学生さんのボランティアが増えてきて、地域の輪が確実に広がってきています。参加いただいたキワニス関係の方々は19名、裏方作業をしていただきました。

子ども食堂後、恒例の清水屋さんでの懇親会。妙法寺の方々、地域の方々、ボランティアの学生さん、キワニス会員が互いの労を労いました。

「夏の子ども食堂」は8月2日（木）の予定です。

（事務企画委員副委員長 雲類 孝）







# 子ども食堂

## in 妙法寺

### 8月2日(木) 12:00~15:00

食事受付 … 13:30 まで

300人分のお食事あります

ビーフカレー、サラダ、デザート、飲み物



どりょう  
無料

申し込み不要

このイベントの趣旨に賛同し、実行委員会に寄付をして下さる方は当日受付にお礼し、出下さい。

<主催> 妙法寺子ども食堂実行委員会 & 一般社団法人東京キワニスクラス

<後援> 杉塚区社会福祉協議会

<協賛> 堀之内妙法寺 学士会館精養軒 NPO 法人すきなみのたね 清水屋  
 ふくふくひろば実行委員会 ムラカミ (株) フォーム  
 ゆうゆう庵里庭/内閣 一般社団法人茶道東千景交流会東京第七支部

<ボランティア協力> 明治大学ボランティアサークルしいの実 東京立正短期大学  
 新渡戸文化短期大学 杉塚区立大宮中学校 杉塚区立向陽中学校

◆受付：妙法寺 子ども食堂入り口

◆当日のプログラム

- ① 食事 12:00 ~ 13:30
- ② 体験・遊びのコーナー 12:30 ~ 15:00

茶道体験

ブラパン作り

缶バッチ作り

折り紙工作

バルーンアート



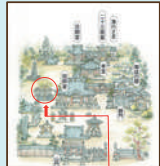
<保護者の皆様へ>

※ 参加されるお子様に食物アレルギーがある場合は必ず受付でお申し出下さい。

カレーに含まれるアレルギーは小麦・大豆・乳製品・ピーナツ・ポーク・りんごです。

サラダに含まれるアレルギーは小麦・ポーク・卵・たまごです。

※ 当日の体験・遊びのコーナーは変更になる場合があります。





昨年8月に開催した「体験・遊びのコーナー」の様子

子ども食堂受付でお待ちしています！

## ロハス de 子ども食堂 2017.11.5

私たちサークル K 武蔵野大学学生団体 connect は、2017 年 11 月 5 日の日曜日に武蔵野大学有明キャンパスにあるロハスカフェで子ども食堂を開催しました。

初めての取り組みで不安もありましたが、多くの方々のご協力もあり、11 名の子供達が参加してく



れました。当日は段取り通りに進み、怪我等の大きなトラブルもなく無事に終えることができました。子供達も私たち自身も楽しみながら取り組みました。また今回、企画のテーマとして「有明地域とのコミュニティの構築」を掲げていました。豊洲の子ども食堂の方や、企画の宣伝を快く承諾してくださった多くの地域の皆様と交流できたので、掲げたテーマを達成することができました。

野菜を切る際に包丁での怪我の危険性があったことや本来の子ども食堂の意図を全て成すことができなかったことなど反省点もありましたが、機会があれば改善しまた開催したいと思っています。

最後になりますが、今回の企画に快くご協力してくださった皆様、参加者の皆様、保護者の皆様本当にありがとうございました。

(サークル K 武蔵野大学 船橋悠真)

## こども食堂in妙法寺 2017.8.2

8月2日(水)に、今回で、第3回目になる「こども食堂」が杉並区の妙法寺で開かれました。今回は、地元の中学校2校から、18名の中学生が、ボランティアで参加してくれました。また、地元の町内会の方々も、いつものように、お手伝いに来てくださいました。

お昼前に、雨が降って来たため、出足が心配されましたが、児童養護施設の子供たちを含め、約300名の方々が参加され、恒例の「学生会館のカレーライス」をいただくと共に、「パソナグループの団扇作り」に皆で参加しました。また、希望者には、和室での茶道体験や体育館でのプラバンやバルーンアートの作成などの催し物もあり、参加された方々には、十分に楽しんでいただけたと思います。

最後は、地元のグループによるフォルクローレの演奏で、にぎやかに散会となりました。

キワニスクラブからは、30名の方々が、参加してくださいました。ありがとうございました。

(中田一男会員)





## 妙法寺子ども食堂 2017.4.4

好天と満開の桜に恵まれた4月4日（春休みの最後）、古刹堀之内「妙法寺」での第2回目の「子ども食堂」を開催致しました。

今回は地元の方々が中心となって運営し、我がクラブは共催者として学士会館精養軒のカレー・紙食器そして山口会員を先頭に17名の逞しい労働力を提供しました。来訪者は320人。

子ども達は食事や手作りのデザートの後、茶道体験・バルーンアート作り・プラバン作りなど3時間をたっぷり楽しみました。

参加会員はお寺や地元の皆さんとの協賛者のそば店での「反省会」をさらに大いに楽しんで散会となりました。

（鈴木祐二事業企画委員）



4月4日、満開の桜の中、杉並区堀ノ内の妙法寺にて『みょうほうじ 子ども食堂』を催し、320名もの親子に参加して頂きました。

企画・実行隊長の鈴木祐二さんのもと、藤原ガバナーはじめ、若い方々？を中心に東京キワニスクラブメンバーの精鋭が子どもたちに、学士会館精養軒から提供されたビーフカレーや、NPO法人すぎなみのたね提供のサラダやデザートを配りました。

また会場には、茶道体験コーナーやバルーンアート作りなどの遊び場もあり、子どもたちのたくさんの笑顔と笑い声で満ち溢れており、子どもたちからは「みんなと美味しいカレーを食べられて楽しかった」「また来年もやってしてほしい！」との声も聞かれ、私達も大忙しの中、自然と笑顔でした。子どもたちの笑顔と東京キワニスクラブ・妙法寺の精鋭たちみんなで作り上げた『みょうほうじ 子ども食堂』は昨年に続き大盛況の内に幕を閉じることができました。

最後に、今回の『子ども食堂』の記事が4月5日版の

産経新聞・産経新聞に大きく取り上げられました。こうした記事を取り上げてもらうことにより『子ども食堂』

がさらに世の中に浸透していくことを願います。

(山田明彦会員)

産経新聞 平成 29 年 (2017 年) 4 月 5 日 水曜日

読売新聞 2017 年 (平成 29 年) 4 月 5 (水曜日)

## 無料で食事提供 折り紙・バルーン作り

子供食堂は、一人親や共働き家庭、経済的な理由で満足な食事を取れない子供を救うため、子供一人でも食事を提供できるように始めた社会運動。食事は寄付でまかなう。提供は地域のボランティアが手掛ける。

厄除けの御利益で知られる杉並区堀ノ内の妙法寺で4日、子供たちに無料で食事を提供し、折り紙やバルーン作りを楽しむ催し「みょうほうじ 子ども食堂」が開かれた。寺で開催する子供食堂は珍しく、初めて開催した同寺の総務部長、望月隆行さん(44)は「いろいろな形で地域の親子さんたちが交流できる場を目指したい」と話している。

## 「子供食堂」で地域交流

杉並・妙法寺



「みょうほうじ、子ども食堂」で提供されたカレーを食す親子(杉並区)。右は総務部長、望月隆行さん。

「みょうほうじ、子ども食堂」は、妙法寺近くのボランティアーからなる妙法寺子ども食堂実行委員会、地域責任者として一般社団法人「東京ウニクス」が主催。この日は30人以上の親子連れが訪れた。

食卓には、妙法寺近くのボランティアーから提供されたカレーが振る舞われ、茶道体験も行われた。

望月さんは「子ども食堂は、地域交流の場として、今後も続けていきたい」と話している。

「みょうほうじ、子ども食堂」は、妙法寺近くのボランティアーからなる妙法寺子ども食堂実行委員会、地域責任者として一般社団法人「東京ウニクス」が主催。この日は30人以上の親子連れが訪れた。

食卓には、妙法寺近くのボランティアーから提供されたカレーが振る舞われ、茶道体験も行われた。

望月さんは「子ども食堂は、地域交流の場として、今後も続けていきたい」と話している。

「みょうほうじ、子ども食堂」は、妙法寺近くのボランティアーからなる妙法寺子ども食堂実行委員会、地域責任者として一般社団法人「東京ウニクス」が主催。この日は30人以上の親子連れが訪れた。

食卓には、妙法寺近くのボランティアーから提供されたカレーが振る舞われ、茶道体験も行われた。

望月さんは「子ども食堂は、地域交流の場として、今後も続けていきたい」と話している。

「みょうほうじ、子ども食堂」は、妙法寺近くのボランティアーからなる妙法寺子ども食堂実行委員会、地域責任者として一般社団法人「東京ウニクス」が主催。この日は30人以上の親子連れが訪れた。

食卓には、妙法寺近くのボランティアーから提供されたカレーが振る舞われ、茶道体験も行われた。

望月さんは「子ども食堂は、地域交流の場として、今後も続けていきたい」と話している。



みんなでいただきます 杉並・子ども食堂

地域の子どもに無料で食事を振る舞う「子ども食堂」が4日、杉並区堀ノ内の妙法寺で開催され、親子連れ約30人参加した。社会福祉団体の「東京キワニスクラブ」と「妙法寺子ども食堂実行委員会」の主催。同寺での子ども食堂は昨夏に続いての回目で、この日は七夕カレシやサラダ、飲み物が無料で振る舞われた。

会場には、ボランティアーによる茶道体験コーナーやバルーンアート作りなどの遊び場も設けられた。母親たちと一緒に参加した同区の高橋日百合ちゃん(6)は「みんなでおいしいカレーを食べられて楽しかった」と笑顔を見せていた。

実行委員の鈴木祐二さん(65)は「子ども食堂がきっかけになってお寺に来ても子連れのお客さんが来れば、みんなが集まって楽しめる」と話した。

今後、継続的に開催していきたい。

## 「子ども食堂でチャリティシンポ！」に参加して 2016.12.11

「子ども食堂でチャリティシンポ！」は、東京キワニスクラブとNPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークの協力のもと、実行委員会は学生のボランティアの人たちが中心になって、12月11日に開催されました。

今回の企画は、イベント名が示す通り、子ども食堂その



ものの開催に加えて、子どもの貧困についてのシンポジウムを行うというものでした。そのため、子どもたち30名ほどの参加のほか、大人の参加者は、お母さん方が約10名、立教大学の学生を中心としたボランティアが約40名、その他のシンポジウム参加者が約70名となりました。

第一部は子ども食堂で、学士会館精養軒さんのご協力による特製カレーや果物のデザートを子どもと大人が一緒にテーブルで食べました。始まる前にはサンタさんも登場（キ

ワニスの会員が扮しています）、食事中には本場ハワイ出身のファミリーによるフラダンスも披露されました。子どもたちものびのびとふるまっていた、とくに元気の子からはフラダンスに「アンコール！」の声がかかっていた。

第二部はシンポジウムとグループトークで子どもの貧困を考えようというセッションです。このときは、会場をパーティションで仕切って、子どもたちはボランティアのお兄さんお姉さんたちと遊戯スペースで遊んでいます。シンポジウムでは、シングルマザーの生活難の話や子どもたちへの学習支援、進学にかかる経済支援の話など幅広く子どもの貧困にかかる問題が紹介され、また子ども食堂を実行されている方や学生ボランティアから体験談や問題意識の表明がありました。その後、参加者がいくつかの小グループに分かれてのグループトークとなりましたが、たいへん熱のこもった意見交換がおこなわれておりました。ちなみに、筆者も思うところをいろいろ喋ったところですが、若い人たちのいろいろな話を聞いてみて、むしろ筆者の頭の固さを反省するところが大きかったです。

なお、今回のイベントに東京キワニスクラブからの参加は、会員14名にサークルK武蔵野大学から4名、さらに入会希望中の方を含めて、全体で21名となっています。東京キワニスクラブの会員・関係者の方々の関心の高さには筆者自身改めて印象付けられました。

（菅野良三メンバーシップ委員長）

## 「子ども食堂でチャリティシンポ！」に参加をして 2016.12.11

先日、参加をさせて頂きました、NPO法人豊島区子どもWAKUWAKUネットワーク様主催「子ども食堂でチャリティシンポ！」では、とても有益な時間を過ごすことができました。特に印象に残っている3つのことがあります。

一つ目は、会場に入った時の雰囲気です。子どもと大人の距離が非常に近く、一つのまとまりとしてはっきりと認識をすることができました。普段から子どもとのかわりを大切に、常にお互いを思って過ごしているのだと実感しました。僕自身、児童養護施設でスタッフとして子どもと関わる機会が多いので、子どもとの関係性を深めるのが、どれだけ大変かを身をもって感じております。ので、会場の雰囲気の第一印象はとても深く残っております。しかし、実際に子どもと関われる時間が少なかったのは少し残念です。

二つ目は、シングルマザーの方々のお話です。僕自身、母子家庭で育ちました。母一人で働き、家族を想い、動くことの大変さ、を実際のシングルマザーの方たちの実体験から感じることができました。

最後に、実行委員会の大学生たちの「本気」が印象に残っております。フリートークの際にも、彼らは確かな数字や、国の調査結果などをもとに具体的な話をしていたのはも

ちろんですが、彼ら自身の言葉で自分の思うことを私たちに伝えてくれました。「本当はこのような状況はあってはならない。」といていた実行委員長の中村さん。当たり前のことではあるが、それを敢えてあの場で伝えたことが素晴らしいと感じた。日本の子ども貧困は社会問題化しているが、この出来事に深く関心を持ち調べ、行動し、改善をしようとしている人は一体どれ位いるのだろうか。もちろん、貧困だけではない。低迷する日本の国内情勢。正しく調べ、考え、アクションを起こすことがとても大切である。そして、僕自身、一人の「子ども」として、物事を探求し、考える時間がたくさんある今に感謝し、学びを進めていきます。

自分を見つめなおすとてもいい機会となりました。これからもキワニアンとして子どもとの関わり方、世界との関わり方をしっかり行動から学んでいきます。

（サークルK武蔵野大学広報長 三浦匠吾）

12月11日に、初めて子ども食堂に参加させて頂きました。結論から言うと、思っていた活動とは異なったことと、もっとこうしてほしかったという部分はありましたが、良い経験になりました。



思っていた活動と異なったということについて。参加させていただく前は、貧困や個食など食事を満足にできない子ども達とワイワイしながら食事をするものと考えておりました。しかし、実際は子ども達と大人は戸で仕切り、「日本の子どもの6人に1人が貧困」という問題・改善策について考えるというものでした。他の大学や社会人の方たちも一緒であったということで、ゼミなどでもなかなかできない経験であり、勉強になり、楽しい話し合いでした。



もっとこうしてほしかったということについて。「6人に1人」と言われても実感が無く、私は本当にそうなのかという疑問を持っております。そのため、子育てに苦しむシングルマザーの方々、今回の子ども食堂の進行をなさっていた女性には、もっと具体的な貧困の状況・子育てについて話して頂けたらさらに良かったと思います。当事者にしかわからないことであり、我々参加者が知ることでより濃密な話し合いが可能になると思います。プライバシーにも関わるので無責任にもっと言ってほしいというのは好ましくありませんが、日本の子どもの貧困を改善していくためには必要ではないでしょうか。

初めて参加させていただいたのに偉そうなことを言ってしまったが、本当に良い経験になりました。自分のプライベートを削って子ども達を支援する熱い学生や、シングルマザーの経験を話して下さった女性など、また1つ知らない世界・人間を見ることができて良かったです。ぜひまたの機会に参加させて頂ければ幸いです。

(サークルK 武蔵野大学 伊藤賢也)

12月11日に行われた子ども食堂でチャリティーシンポ!に参加させていただき率直に感じたことは、行く前にイメージしていたのは少し暗めの雰囲気なのではないか思っていたが、実際はとても明るい雰囲気であったということです。このように感じていた方がグループワークの際にもいたので、多くの人が感じたことなのかなと思いました。

この活動を通して、特に印象に残っていることは、中々聞くことのできないシングルマザーのお母さん方や子ども達、実際にボランティアをしている人の話を聞いたことです。シングルマザーの方が昔と現状はあまり変わらないけれども、話すことにより心に余裕が持てるようになったとおっしゃっていたこと、修学旅行に行けて楽し

かったと嬉しそうに話していた子どもたちなど一人一人の思いが詰まった言葉を聞いて、とても印象深く心に残る言葉がとてもたくさんありました。また今まで自分自身が当たり前のように経験してきたことは実は当たり前ではないのだということに気付いた場でした。だからこそ誰でもその経験ができるように、少しでも自分自身が出来ることから手助けをしたいと強く感じました。

多くの人の話を聞き、現状を知ったからこそ、実際に子ども食堂などに参加し、子どもたちと関わっていきたいと思いました。

(サークルK 武蔵野大学 鎌田夏実)

貧困で困っている子どもやその親がいることについて、テレビや新聞などで言っているのを見ます。今までその事をみて特に気にすることがありませんでした。今回このイベントに参加したことで貧困の今の状況を深く知ることが出来ました。私は小学校、中学校、高校、大学とあたり前のように入学し、両親にお金を払ってもらい通ってきています。学校に通うためには入学費、授業代、制服代、教科書代、交通費などたくさんのお金がかかるということに話を聞いて気づきました。また、お金の問題で制服が買えるか買えないかの状況の人がいることを知り、普通に学校に通えていることがあたり前ではないことを感じる事が出来ました。貧困の状況を知るとともに、自分がどれだけ両親に安心して学校や生活をさせてもらっていたのかを感じさせられ、感謝の気持ちを感じます。この安心して学校に通うことや生活をするを、貧困の子ども達に同じように生活出来るように活動していきたいと思いました。子ども達だけの問題ではなく、



子どもに何とかして心配かけないようにと頑張る親御さんにも助けが必要であると感じました。今回のこの機会をきっかけに、そのような人たちが不安や悩みを打ち明けられる環境を作り、地域や周りの人で協力して問題を解決していけるような社会にしたいです。私は今まで海外の貧困を見ていたけれど、日本でこのような状況があることを知りませんでした。まず自分の国である日本で、自分の知らないところで起こっていることに目を向けていこうと思います。そして、その人々のことを知ってもらうことや、支援をするなど少しずつでも何かをしていければと思いました。

(サークルK 武蔵野大学 田中沙弥香)

## 「キワニス子ども食堂in妙法寺」開催 2016.8.2

子ども達の夏休みの8月2日(火)、杉並区の名刹妙法寺で標記の会を催し230人の参加がありました。

100食用意しましたとチラシに書き、念の為150食準備し、やり繰りで200食提供しましたが、カレーもパスタも米も底を突き、力も尽きて最後の30名にはサッポロ提供のぶどうジュース(ペットボトル)でご容赦頂きました。

会員17名・家族友人5名・千代田クラブ2名・事務局2名が参加し、飯炊き・案内・掃除など奮闘しましたが、

皆昼飯は抜きとなりました。

古今亭今輔師匠の落語や、地域の方5名に依る「茶道体験」、高校生・大学生等のボランティア20名の「ジャグリング体験・バルーンアート作り・工作コーナー」には行列が出来る程で子ども達は3時間を堪能しました。

なお、これを機に地元の皆さんが中心になって妙法寺で学習支援+食事の「寺子屋」を持続的に開催しようとの話が進んでいます。

(鈴木祐二事業企画委員長)





**キワニス**  
「キワニス」とはアメリカ原住民の言葉(みんな一緒に集まる)に由来します

# 子ども食堂

in みょうほうじ (妙法寺)

**8月2日(火) 12:00~15:00**

食事受付... 13:00まで

100人分のお食事あります

ビーフカレー、スパゲッティ、サラダ、デザート、飲み物

お礼  
無料



申し込み不要

<主催> 一般社団法人東京キワニスクラブ

◆キワニスクラブって何?◆  
1915年にデトロイトに設立された、世界三大国際奉仕団体(ロータリークラブ・ライオンズクラブ)の一つです。特に子ども達のサポートに力を入れています。

<後援> 杉並区社会福祉協議会

<協賛> 堀之内 妙法寺  
株式会社学士会館精養軒  
サッポロホールディングス株式会社

◆ 受付: 妙法寺 入り口 (山門前)

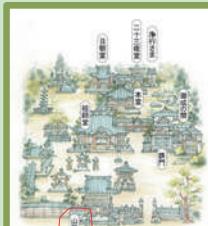
◆ 当日のプログラム

- ① 食事 12:00~13:30
- ② 子どものための落語 13:00~  
(六代目 古今亭今輔師匠)
- ③ 体験・遊びコーナー 13:40~  
茶道体験  
ジャグリング体験  
バルーンアート作り  
工作コーナー



<保護者の皆様へ>

- ※ 参加されるお子様に食物アレルギーがある場合は必ず受付でお申し出下さい。
- ※ 食事のメニューは変更になる場合があります。
- ※ 当日の体験・遊びのコーナーは変更になる場合があります。



妙法寺 山門でお待ちしています!



豊島区で開催した「子ども食堂」たくさんの人が来てくれました!



## キワニス子ども食堂に参加して 2016.8.2

キワニスに入会して10余年、現職中は金曜例会にはなんとか精勤していましたが、実際の活動としては、週日には東京不在で、心ならずも奉仕活動は思うに任せず、ドールづくりには精をだして協力していましたが、そのほか10年も若かった当時はマラソンにも興味があり、オレンジリボンたすきリレーのランナーとして参加した思い出がある程度でした。

この度、現役を引いて、夫の介護のみがのこされた責任となった現在、すでにキワニスの活動として発足していた子ども食堂には以前から是非参加したいと思って早速参加を申し出たところ、なんと全く不得意なご飯炊きの御役目を割り当てられて、内心不安でしたが、そこは文明の機器と若い主婦達のサポートで、無事おいしいご飯を提供できてほっといたしました。私が実際力を出したのは、こびりついたなべ底洗いくらいでした。

終始厨房におりました関係でじっさい子どもたちとの接触は全くもてず、彼らの喜ぶ顔に接することができなかったことは残念でしたが、この裏方としての役目は、私の性格上、適役だったといえましょう。もしもう少し準備段階から参加しておりましたら、今回の提供不足は防げたかもしれないと、残念に思えました。お米をもう一袋余分に準備していれば、協力してくれたボランティアの学生さんたちへのせめて握り飯でも提供できたのではないかと、これは女性としての配慮です。お米なら残っても次の機会に保存できたし、230名の参加という嬉



しい悲鳴は、なんといってもこのたびの会を準備してくださった鈴木祐二委員長の頭の下がる綿密な準備に基づいており、その充実した企画力にはキワニスの会員として、どれほど誇らしく思えたか、その組織力にはさすがリーダーとしての資質に頭が下がる思いでした。反省事項としては、お手伝い頂いた茶道のグループのおばさまたちに初めに食事を提供してしまったことくらいでしょうか。

今後も、好評であったこの企画を子どもたちへ提供し続けることは、少子化を抱える日本の現状にたいして、我々化石は何ができるか、健全な子どもたちの成長を願って、エールを送るキワニスに最もかなった直接的活動であるに違いない。

(山口知子会員)



## 第2回「子ども食堂」

何と言っても、思わず子ども達から歓声が上がったのは伊藤一実さん扮するサンタさんの登場でした。

☆

12月21日(月)3時半からの子ども食堂は「豊島区民ひろば上池袋」に於いて、地域のNPO・ソーシャルワーカー及び学士会館精養軒等半年前の同じメンバーとのチームワークで行われました。

ハヤシライスや果物に舌鼓を打った後、子ども達は順次ロビーでの3つのコーナーに移り、ピアノ・トランペットと一緒に「皆で唄おう」・伊藤夫人和美さんとご友人に依る「大判紙芝居」・地域の方の指導での「輪ゴムブレスレット作り」で楽しいひとときを過ごしました。

そしてサンタさんから手渡しのプレゼント（お菓子やミニタオルなど）を手に、足取り軽く帰途につきました。

この日は小中学校が大掃除の為下校が遅く、47名の地元参加者の多くは母親付添の小さなお子さん（母子家庭の皆さん）と成りました。

尚、当方は会員22名・その家族友人6名が参加致しました。

今後、定例化する上池袋でノウハウを積み重ねると共に、他の場所でも地域の協力が得られれば積極的に開催して参ります。皆さまからの情報・要請を歓迎致します。

（鈴木祐二事業企画委員長）



## 第2回「子ども食堂」に参加して

昨年の12月21日に開催されました第2回「子ども食堂」に参加させて頂きました。東京キワニスクラブの今後の大きな柱の一つになることを期待されているという事をお聞きし、参加と言うよりも先ずその内容やその活動の良さを知ることが目的にお手伝いとして参加させて頂きました。皆で食べる食事の楽しさだけでなく、歌や紙芝居等小さな子どもたちが喜びそうな様々な趣向が準備



されていました。最後はトランペットと合唱で大いに盛り上がり、参加して頂いた子どもたちやキワニスメンバーの笑顔の中で約2時間位でしたかあっという間の時間でした。この活動は、子どもたちと直接に会ってふれ合って話して、彼らの成長に少しでも繋げることが出来るという点で大変有意義と感じています。特に子どもたちの純粋な気持ちや行動は我々の中にずっと伝わってきます。今回は一回目と比べると時期的な事もあり参加者が少なかったという事ですが、より多くの方が参加頂けるように一工夫加えれば更に有益なものになると思います。私自身の出来ることは限られていますが、今後も積極的に参画して行きたいと考えています。

（木本健青少年教育委員長）

## ようこそ! 「子ども食堂」へ 2015.6.30

6月30日(火)豊島区の「区民ひろば上池袋」で当クラブ初の「子ども食堂」を開催しました。ひとりっ子・共働き・シングルマザー・ファザー等から「孤食児童」は増える一方です。子どもを中心に多様な顔ぶれで語り合いながら「美味しく」食べる機会を提供したいと考えたものです。41人の子どもに地元の老人・NPO・ソーシャルワーカー等も加わり、キワニアン18人を含め約100人が集いました。

協賛の学士会館精養軒の総料理長が長いコック帽姿で特製ビーフカレーを配り、子どもたちは一緒に写真を撮るなど大喜びでした。

食後は中村・佐々木・小野の3会員による手品コーナー(見せ・教える)に子ども達の輪が出来、大きな歓声が上が



がって居ました。

「子ども食堂」は、今回お世話になったNPO法人「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」の協力を頂きながら今後継続開催して参ります。

(鈴木祐二事業企画委員長)



## 「子ども食堂」に参加して

6月30日、東京キワニスクラブにとっては初めての企画「子ども食堂」に参加いたしました。色々の事情で夕食を一人で食えることが多い子ども達と一緒に食事をし、楽しいひと時をとという趣旨でしたが、正直言って初めて会う子ども達と共通の話題があるわけでもなく、どういことになるのか心配がありました。

しかし、献立のカレーライスを作ってくださった学士会館精養軒総料理長大坂勝さんの正装のコック姿と、おいしそうなカレーの香りで、あっという間にうちとけ、和気藹々、楽しい食事会になりました。大坂さんが子ど



も用にコックの帽子を用意して、それを子どもにかぶらせて一緒に写真におさまってくれたことや、東京MX TVの取材でカメラが入り子ども達へのインタビューが行われたことも会を大いに盛り上げたと思います。

事業企画委員会の「挨拶なし、シナリオなし、すべては自然にまかせて」の作戦は成功したようです。

食事のあと、ロビーで小野会員、佐々木会員、私の3人が余興として子ども達にマジックを教え、一緒に楽しみました。習ったマジックを家の人に見せたいと言って何度も何度も練習する子ども達の熱心な姿が忘れられません。なんとなく良い一日になったかなと感じたひと時でした。  
(中村禎良会員)